

分担金・拠出金の名称	国際連合訓練調査研究所(UNITAR)拠出金		評価	A
拠出先の国際機関名	国際連合訓練調査研究所(UNITAR)			
国際機関の概要	UNITARは、主に開発途上国出身の外務省等職員及び国連・専門機関職員等の訓練を目的として国際協力や多国間外交等に関する各種セミナー等を実施する国連内の自律的機関である。近年は、防災、紛争予防、平和構築等の分野に重点が置かれ、世界各国で研修、ワークショップ、eラーニングコースを実施している。			
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標			達成状況	
1. (1) 成果目標:UNITARへの拠出を通じて、我が国の重要外交開発課題の遂行を促進し、我が国実施事業との相互補完性を高める 活動指標:UNITAR研修プログラムの受講者数			UNITARは、主に開発途上国出身の政府職員等に対して、我が国が推進する防災、平和構築や核軍縮等について積極的な研修事業を実施しており、毎年2万人以上がUNITARの各種研修等を受講。防災に関しては、平成26年に第3回国連防災世界会議に向けた防災及び国際的な防災指針「兵庫行動枠組」に関するオンライン研修を実施する等、多国間の防災支援により我が国の取組を補完している。また、UNITAR広島事務所においてアフガニスタン政府職員に対する紛争からの復興プログラムや東南アジア諸国向けの核軍縮研修を実施する等、我が国とも連携しつつ、積極的に事業を実施している。	
(2) 成果目標:UNITARにおける我が国の発言力・影響力を確保する 活動指標:広島事務所との連携、我が国とのハイレベルにおける意見交換の実施			UNITAR事務局長は、平成25年度、平成27年度(2回)と訪日しており、我が国ハイレベルとの意見交換等を通じて、UNITARにおける我が国の影響力を確保している。平成26年1月からは、UNITAR広島事務所長を邦人が務めており、密に連携を取ることで、UNITARとの関係強化が図られている。	
(3) 成果目標:効率的な組織・財政マネジメントの実現 活動指標:具体的な組織運営改善措置の導入			UNITARでは、その意思決定機関である理事会を毎年開催し、活動や事業を効率的に運営するための原則や政策を決定しており、人事構造や配置についても併せて再検討を行っている。UNITAR事務局としても、内部及び外部監査を実施し、毎年事業の運営の効率性に関して厳しく精査した上で、その後の事業を計画している。また、UNITAR事務局より、毎年財務報告書や活動報告書等が提出されており、必要に応じて年間の事業や拠出金のより効率的な利用について要請している。	
(4) 成果目標:我が国人材の知見、技術の提供による開発途上国への貢献 活動指標:邦人職員の増強。			UNITAR広島事務所長を邦人が務めており、密に連携を取ることで、UNITARとの関係強化が図られている。現広島事務所長は、隈元美穂子氏。また、UNITARには隈元所長を含め3名の専門職の邦人職員が所属。UNITARの専門職以上の職員は組織全体で35名であり、約8%が邦人という高い水準となっている。	
2. PDCAサイクルの確保			UNITARにおいては、以下の通りPDCAを確保。 ①Plan:理事会で二ヶ年予算案を採択。②Do:我が国の拠出金支払。UNITARによる予算執行。ジュネーブ政府代表部によるUNITARの運営・活動のモニタリング。③Check:内部・外部監査報告書による運営活動の成果を評価。④Act:毎年の理事会を通じて運営における要改善事項を申し入れ。また、事務局長の訪日の機会を捉え、運営や活動の改善に係る我が国提言をハイレベルで行う機会を確保している。	
担当課・室名	国際協力局 地球規模課題総括課			